

議会改革特別委員会記録

日 時 令和7年11月20日（木曜日） 9時57分～10時57分

場 所 議員控室

出席者 平山委員長、村上副委員長、佐藤委員、金木委員、阿部委員、逢坂委員、小寺委員、磯野委員、舟見委員、工藤委員、村田委員

事務局 鈴木事務局長、嶋元係長

村田委員

少し早いのですけれども、皆さんおそろいですので、始めさせていただきます。今日が第1回目となります議会改革特別委員会を開催したいと思います。

少し私のほうから説明させていただいて、そして委員長、副委員長、一応内定しておりますので、発表させていただいて、その後どういう形で決めていけばいいかという流れで協議していただきたいと思います。

まず、目的は、やっぱり次の統一選挙のときに今までいろんなところで言われています議員の成り手不足とか、あと若手とか女性に出てきていただきたいとか、いろんな声がある中で羽幌町議会としてどういう形にしていくのが一番いいのかというところは現職の私たち、皆さん方の責任の下で決定していかなければならない事項であります。そういう中で前回9月の定例会で特別委員会を設置させていただきました。流れ的にいきますと、まずは議員定数をどうするか、これをまずは道筋を立てていかないと次に進む議員報酬、それから常任委員会の在り方など関連性が出てきますし、次期の統一選もあと1年半切りましたので、そういう中で来年度の9月もしくは遅くても12月には決定してきちんと町民の皆様に答えを見いだしてその周知期間もちょうんと持たなければならぬということですので、できれば議員の定数に関しては来年度の6月をめどに決定をして、その後報酬、あと常任委員会等のことを含めて早ければ9月、遅くても12月という形で進めていければなど。その中には、議会で決めても報酬審議会とか、そういうところを通さなければならぬこともありますし、最終的には議員が提出するものでなくて行政側が提出する案件になりますので、そこら辺は行政側と連絡を取り合いながらしていかなければならないということがありますので、今日はそういうことを取り進める上でどうしていったらいいのかという一番根本的な部分を決定していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

そういう中で実は自分ちょっと勘違いして9月の定例会で特別委員会立ち上げたときにその場で委員長、副委員長を互選するのかなと思っていましたら、そのときに決めな

くてもいいのだということが分かって、でもそういうこともあったので、内定しておりますので、今発表しますので、できれば承認お願いしたいと思います。

委員長に平山美知子副議長、副委員長に村上議員を指名したいと思いますので、皆様の賛同をよろしくお願いします。よろしいですか。（異議なし。の声）

それでは、両名を中心として、いろんな考え方、いろんな意見ありますでしょうから、大いに議論をして統一したり、道筋ができればと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、委員長、交代するということでよろしくお願いいたします。

1 改選後の議員定数について

平山委員長

皆さん、改めておはようございます。ただいま議長のほうからいろいろ説明がありまして、議会改革特別委員会の委員長を仰せつかりました平山です。そして、副委員長には村上議員です。皆さん、よろしく願いいたしたいと思います。

それでは、協議に入りたいと思いますが、先ほど議長が説明ありましたように議員定数をまず最初に決めて、その後に報酬の部分とか、それから委員会の在り方とかについて話をしていきたいということがありました。それで、議員定数については、先ほど来年の6月をめどにしていきたいということなので、まず定数の件で進めたいと思いますが、どうでしょうか。（異議なし。の声）

それでは、進め方なのですが、今ここにと言ったらおかしい言い方ですが、資料が今回ありません。前回2回ぐらいか、町民のアンケートとかを取っておりますが、今回はそういうことはしないということで、過去のそういうアンケートのこととか、それぞれに頭に置きながら議論を進めていけたらなと思っておりますが、皆さんどうでしょうか。（異議なし。の声）

村田委員

簡単に答えが出せる問題ではないので、全国的なり、それから北海道、管内の今の動向というのですか、そういう部分に関しては資料ありますので、そういう資料をまず提示するのと、あと皆さん個々の議員活動の中で町民の声は自分たちそれこそ職場でもいろんな場所で聞けると思うのです。そういうのをやっぱり少し情報収集をする期間というのも決めた中で定数に関しては本題に入っていかないと、ではどうしますか、はい、そうしましょうかというような簡単に答えが出るようなことではないと思うので、どうでしょうか。資料のほうは事務局のほうで、管内の動向は結構もう出ています、減らす

ところ。そこに関しては、議員報酬の部分も一緒にくっつけてもいいかもしれませんが、全国的にいくと自分なんか行っている全国大会、議長大会なんか行くと議員の成り手不足をどうするというのと、それに対して議員報酬上げなければ駄目だというのは毎回のよう議決している時代になっていますから、そういうのも含めて少し、できる範囲のことでいいので、そういう資料もなくいきましょうというのなら、それはそれでいいのですけれども、どうでしょうか。

逢坂委員

議長の言うとおりで、何もなくて今回はどうするこうするというのがなかなかできないかなって私自身は思うのです。それで、議長の言うとおりで事前の資料は、令和3年か4年のときのアンケートというのは最終的資料なのです。それに基づいて自分はちょっと勉強はしたのだけれども、ただ、今また新たに5年なり3年なりたっているわけだから、その後の経過というか、今の新しい現状をやっぱり知るべきだというふうに私は思うのです。そのためには、多少の資料は必要かなと。そして、定数です。報酬もそうなのだけれども、そういうものがなければ、お題になるものがなければ、うちら前回のアンケートでそしたらやっていくのかいということになってしまうから、そういう部分で事務局のほうで負担かかるだろうと思うのだけれども、その辺は皆さんどうなのか。前回の資料で、4年前の資料でやっていくのだというのであれば、この資料に基づいてまた同じような意見の出し合いだと思うので、そういうことでなくて今現在羽幌町の人口なんて結構その当時から見たら1,000人ぐらい減っているという部分もあるし、そういう部分でいろんな資料、参考になるものを出しながら、今日はいろんな意見を聞くと、いい案があるかもしれないので、私はあまりいい案ないのですけれども、だからそういうことで進めていったほうがいいかなというふうに思いますけれども。

平山委員長

ほかに進め方として意見ありませんか。

阿部委員

資料を基にするのも一つなのかなとも思いますので、そういうのも全国的、全道、管内の動きというのも一つ改めて見るのも参考にいいのかなとも思いますが、前回のこの特別委員会、改選前ですよ。そのときは、資料はありましたけれども、最終的には個々の議員個人個人の考えであったり、各議員の支持者であったり、町民から聞いた意見を基にしていたので、最終的には多数決で決まった部分もありますので、今ここですぐで

はそれぞれの一人一人今の現時点での考えというのはなかなか言いづらいところもあるとは思いますが、まず改めて資料を参考にしながら、最終的には個々、個人個人議員の判断でこれは決める部分だと思いますので、今日すぐにというわけではなく、また改めて一回そういった資料も参考にしながらそれぞれ、その間に多分町民の方からそういった話も聞かれるとは思いますが、そういったのも基に個々の議員が議論していけばいいのかなとは思いますが。

逢坂委員

今回の議会改革ということで、定数とか報酬も含めて検討するのだろうというふうにしていろいろと調べてきていたのだけれども、結果的に他の町村見ても財政的な面、柱を何点か決めて、資料は別ですよ、資料は資料で作るのだけれども、大体柱を決めて、例えば経済的な面がゆるくないから少しでも削って町のためにやろうとか、それから人口減少が急落してきているということによって議員定数もこれは考えるべきだということ、それからもう一つ、議会改革として前回も何人かの議員さんも言っていたのだけれども、議会改革の一つとして議員削減も一つの案だよというようなことも出ていたので、そういう柱みたいなものを検討しながらつくって、つくるとい言葉はちょっと表現悪いのですが、やっていくべきだと私は思うので、財政的にちょっとゆるくないとか、人口減少がちょっと激しいとか、人口が減少することによって議会改革になるとか、あと要するに議員定数、例えば現状維持にするのか、減にするのか、増やすことはないと思うのですが、それに対するメリット、デメリットだとか、そういうものを出していきながらやっていけばいいかなというふうに思います。できれば、今日来て何名にするということはなかなかできないと思うので、そういうことも含めて大きなくくりの中で私はやっていけばいいかなというふうに、判断していけばいいと思います。

平山委員長

申し訳ないけれども、1人ずつ思い聞かせてほしいのです。いいですか、聞いても。

佐藤委員

皆さんからいろいろ話を聞いた中で先にいろいろ考え方は出ると思うのですが、議員の考え方として今の現状といわゆる改革どうするのだと、現状でいいのであればそのままでいい話であって、いろんな模索をしてもほかの町はほかの町の考え方があって財政面なりいろんな考え方があると思うので、それをうのみにすることもできないし、羽幌町のこれからを考えた場合に今逢坂委員が言うとおりの財政面でも大変厳しい中でや

っていかなければならない、10年後の人口は果たして何人になるだろうか、その中で議員たちがではどうなのか、自分も個人的に言えば、今の議員活動に対してはやっぱり町政側のいわゆる考え方が強くて議員それぞれの考えがなかなか通らないのが現状というのが自分ちょっと考えているところなのですけれども、できることであれば、今回こうやって集まったのであれば現状維持が正しいのか、最低限定数削減という方向、そっち側の観点だけでも決めて、そして後日その方向を皆さんから答えをいただくような格好を取ったほうがいいと思うのですけれども、私からはそんな考えでした。

金木委員

私は、4年前から比べて今5,000人台にはなったといっても、前回たしか5,000人台の町を中心に議員定数を探してみたら、やっぱり11人ぐらいが平均的だったということだったと思うのです。管内で見ても若干あと10人とか9人とかいう町もあるようですけれども、今の段階で私は定数に関して減らすとかいうはっきりとした考えは持っていません。定数を減らせば、では議員活動活発になるのかというと、そうでもないだろうし、議員活動は議員活動、定数は定数ということでやっぱり考えていくべきなのかなと思っています。ただ、私の周りでは11人多いのではないかと、減らしたほうがいいのではないかとという声は一人も私は聞いていません。

以上です。

阿部委員

先ほど進め方について話をした部分で、個人的な考えとしては前回の改選前の自分としては議員定数は削減すべきだといった意見はずっと曲げずに前回までは訴えてきました。理由としては、町の財政的な部分も含めてだし、減らすことによって財源が浮くのであれば、それを町民に使えることができるのではないかとしたことでありましたので、その考え自体は今も全く変わっていません。進め方は、先ほど言ったとおり進めていただければと思います。

逢坂委員

付け加えて、今個々に意見も出たので、私としてもあくまでも前回は資料を見た感じだったのだけれども、そんなに多いという突出した議員数でもなかったもので、11という今の現状はこれからのいろんな意見、皆さんの意見を聞きながら参考にはしますけれども、前と同じで別に普通の一般の人から聞いても議員定数って多いのか多くないのだから分からないというような意見が多数だったので、別にその部分で例えば財政的に二百

何十万を浮かすのか、もう少しあれするのかというのはこれからの議論の中でやっていく範囲だと思うのだけれども、今の考えでは別に前回と同じでもいいのかなと、これは多数決ですから、決まればそれに従いますけれども、自分なりには今のままでいいのかなという考えでいます。

村上副委員長

僕は、知り合いとかから聞く範囲ではやっぱりちょっと定数は今現状は多いのではないかなという意見のほうが多いものですから、また再度いろいろと意見を伺いながら決めていったらいいのかなと思っております。

小寺委員

まず、定数と報酬のことだと思うのですが、まずそこがメインではなくて、何を目的にするかというのをみんなで統一しないと駄目だなと。例えば財政の負担を減らすのか、成り手不足をどうするかとか、そういう目的があるから、それに対して定数はどうしたらいいのか、報酬はどうしたらいいのか、逆の場合もあります。報酬が少ないから上げたほうがいい、でも全体のバランスがあるので、定数を減らそうとか、やっぱり目的をきちんとみんなで統一しないと、今考えられているのが定数と報酬が目的になっている気がして、そうではなくて自分としてはやっぱり議会がきちんと機能するためにはどうしたらいいのか、羽幌の場合は成り手不足とかというのが、今まで無投票というのがほとんどなかったのですけれども、ただ今後ほかの町村のように成り手不足とか無投票があり得ると、その際にそのためにはどうしたらいいのかと。やっぱり魅力のある議員報酬であったりだとか、そういうのを見つけていくというふうなやり方がいいのではないかなと。ただ人数が多いですか、少ないですかというのではなくて、やっぱり何のために今それを見直しというか、この特別委員会がつくられてやるのかということが1つです。目的をきちんと、みんなでもう一回そこは話し合ったほうがいいかなというのと、あともう一つ、それと同時に背景です。今の羽幌町の現状、あと管内、もちろんそういう背景があつてのものだと思うので、先ほどの支持者とか住民の方の話というのも背景に入ると思うのですけれども、そういうのも加味しながら考えていったらいいかなというふうに思います。

磯野委員

今小寺さんの話したことにおおむね賛成で、私の個人の意見として羽幌だけでなくて近隣の町村、全国ですけれども、特にこういう僻地のほうはどんどん、どんどん都市部

に人口が集まって減っていく、そういう中でこれから問われるのはやはりまちづくりだと思っています。どんどん、どんどん人口が減っていく中で、税収も減っていく中で、ではどうやって生き残るというのはかなり差が出てくるのだと思うのです。そういう中で、では人口が減ったのだから、予算もないのだから、議員も減らして縮小していくってなると、だんだん、だんだんがんじがらめになって、実は私はまちづくり自体もなかなか難しくなるのだらうなと思っている。であれば、今こそピンチなのだけれども、逆にきちっと議員なり行政がまちづくりに向かっていく、そういうさっき小寺君が言ったように一つ目的を持っていく、そのためには私はやはり議員というのはそういう責任を担っていくためにある程度の人数は必要だなというふうに思っています。ただ単に人口が減ったから、財政が厳しいからって減らすというのは、ちょっとまちづくりとは逆行するのではないかというふうな意見は持っています。

舟見委員

今までの話を聞いていて、小寺委員、磯野委員に対してかなり賛同いたします。基本的に見た場合、今現在人口減っている状況の中で、それに呼応して議員を減らす、財政のために減らすというのは逆に本当にまちづくりとか何かを考えた場合にそういう縮小していくということ自体がどうなのかなって自分としては疑問を持っているのと、あと町民の方が政治、町政に対しての関心がほとんどない方が僕の周りだけかもしれないのですけれども、非常に多いというのがとても感じます。だから、ちょっと質問を振ってみたときの答えがもともとの町政の現状ということを知らないものですから、町民の方の言われることというのは当たっていることもあるのですけれども、あまり当たっていないことが多いような気がいたします。僕としては、だから今現在の人口減少とかという問題に対して、あと目的をきちっと踏まえた上でやっぱり議会のことをやらないと、それに呼応してほかの町村がやっているからということをやってしまうと、それもまた別ではないのかなという気がいたします。自分としては、まだ考えがまとまっていませんので。

以上です。

小寺委員

ごめんなさい。私の名前を出して言っていたいたのですけれども、僕現状維持とも減らせとも増やせとも言っていないので、小寺委員のって言って、そこだけちょっとしないと、そこに関しては自分としては目的をつくった上で、それに対して増やす、減らす、現状維持、いろんなのがあっても、そこは自分としてはまだ触れていないので

す。まず、目的をしっかりとしましょうということなので、同じように現状維持ですというふうな発言があったので、自分としてはそうではないです。まだそこには触れていないので、すみません。(申し訳ないです。の声)

工藤委員

自分が思うのには、皆さん分かっており人口も減っているし、この11名という議員定数になったのは僕はつきり分らないのですけれども、大分前かなと思うのですが、そういう点からすると町民からしてみれば人口減っているのになとか、ずっとこの人数でやってきているよなという思いはやはりあるのだらうと僕思うのです。ですから、前回4年前のこういう話合いのときには現状でいいのでないかという僕の思い言っていたのですけれども、ここまできるとやっぱり1名議員減らしてやっていくことが町民に対しても分かりやすくいいのではないかと思うし、11名が10名になっても今の議員の仕事はやっていけると思うので、僕はそういうふうに思っています。

金木委員

ちょっと休憩して。工藤さん、今違うよ、工藤さん、前回は1人減らすって言った。(最終的に。の声) 最初のうちは言ったかもしれないけれども(最終的には減。の声)。ごめんなさい。(失礼しました。の声) それだけちょっと伺おうかなと。

阿部委員

付け加えていいですか。今の維持、減の話とはちょっと別なのですからけれども、先ほど資料をつけてまた議論を進めたほうがいいのではないかといいましたけれども、先ほど磯野委員であったり、舟見委員であったり、まちづくりっていった観点からの議員の関わり方というのもしっかりと大事かなとは思っていますので、もし可能であれば、例えば一般質問が議会活動として、議員活動としての全てではないですけれども、例えば現状11名いる中で議長はできないのですけれども、10名で、では毎回平均が何件ぐらいなのかであったり、例えば委員会での質問件数であったり、議員が提案した議員提案がどのぐらい通っているのかというのは行政側に聞けば分かる部分もあると思いますので、そういったところから本当に議会として今機能しているのか、個々の議員がそれぞれどの程度活動しているのかという部分の判断できる一つの材料だと思いますので、もしできればそういった資料もつけていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

平山委員長

あと、付け加えて言いたいという人おりませんか。(なし。の声) 一応今まで出た意見ですけれども、まず要するに何もないところで議員定数を決めていくのはちょっと難しいということで管内の動向、あるいは全国の動向ですとか、そういうものを情報収集ですか、そういうものをする期間を設けて資料を作ってほしい、それに今阿部委員が言いましたようにこれまでのまちづくりに関しての各個人と言ったら失礼ですけれども(議会がどの程度か。の声) そういうのも参考資料として作ってほしいという意見でありました。あとは、私勝手に一人一人に思いを聞いたのですが、これは今まで出てきた、今までというのは過去にこういう委員会のときに出てきた意見とさほど変わっているものはないなと思って受け止めていました。

それで、今後の進め方なのですが、やっぱり参考資料が欲しいという意見です。これ本当に大切なことだと思うので、事務局には申し訳ないですが、きっと苦勞されると思いますが、お願いできますでしょうか。よろしいですか。(はい。の声) ということで資料につきましては事務局のほうにお願いすることにします。

再度ですが、まだこういう部分の資料欲しいというのがもしあれば今日出してほしいのです。特にこういうのは調べてほしいとか。ないですか。

村田委員

ちょっと今の話と中身違うのだけれども、私の思いも少しお話しさせていただきたいのは、自分も今4期目ですけれども、3期、11年たった中で自分の中の思いというのはやっぱり議会というのは一人一人の活動ですから、一人一人が町民の声聞いて、それを吸い上げてきちっと行政に伝えたり、議会の中で発表したり発言して、それを少しでも町行政に生かしていくというところが一番の目的、監視するだけではない、監視するのはそれは当然のごとくしなければならぬですけれども、そういう中で私ここにこうやって今議会活動している中で個々に相談されたり、いろんなことが起きるわけです。それは、やっぱりそれはそれで議会活動だし、それから議会全体としていろんな意見を持ち合って、ではこうしましょうというまとまった議会というのか、そういうこともないとこれからの羽幌町をつくっていく上でいいものにはならないというところで、そういう活発な議会活動のできる羽幌町議会として進んでいく上でどうしたらいいのかなというところが一番の私の小寺さんが先ほど目的って言った目的はそこにあります。

なぜそこに焦点を置くかという、今の議会の中でいくと活発なそういうものがないので、自分としてはもっと町のことを思っている人とか、それからなりたいたいだけれども、仕事の都合でなれないだとか、いろんな弊害をできれば少しでも取り除いてもっと、

自分なんかは仕事をしながらでも出れる立場、出たくてもなかなか出られない立場、そういうところも羽幌町民の中から一人でも二人でもそういう若い力でも女性でも出てきてもらって活発になって議会活動ができる、そういうところの方向に進んでいきたいなというところでまずは議員定数というところがスタートなのですけれども、それ以外に委員会なんかも今常任委員会3つ、特別委員会もつくったりしてやっていますけれども、そういうところも違う形の委員会の在り方があるような気がしますし、ちょっと今回1つ気になったのはそれぞれの常任委員会で道外視察行っていますけれども、四、五名でのという形でしか今なっていないと、せっかく予算づけて道外のこういうところ勉強しにいきましょうよというところを、そうなるともっとみんなでまとまった形で道外視察なり道内視察なりをきちんと、これはみんなで共有して勉強するというところとか、今なかなかそういうことができていないなというのもあったりして、だから委員会の在り方もではどうしたらいいのだというのもあったりして、いろんなことの思いがあって最終的な目的として活発な議会活動ができる、そういう議会、間違いなくそこになるとおのずと報酬も上げなければならなくなると思うのです。これ難しくて、本当に自分でもどういう答えの導き方をすればいいかというのも難しいのですけれども、本当に自分たちは二代表制の中で議会議員としてここにいる以上、羽幌町が少しでもよくなるようにというところできているわけですから、ここは皆さん真剣にどうしたらいいのかというところを含めて今のここに結びつけてもらって考えて答えを出したいなという思いが私の一番の強いところなので、一緒にいい答えが出せるようにいけたらと思います。なかなか伝えられないのがあるのですけれども。

磯野委員

ちょっと私の思いもあるのですけれども、長い間議員をやっていてずっと思っていますのは、ハートタウンのときに議会が真っ二つになって5対5で1票で決まったというのがあるのです。本当に町の将来を左右する出来事を5人で決めたというすごい責任感を僕持っていて、あれでよかったのっていまだにずっと、結果として今町見ればよかったかなという、そのときの自分もこれが正しいと思って信じて1票投じたのですけれども、ううんと思っていて、もう少し議員がもう一人、二人多ければまた違う結論も出たのかな、また多いほうがやはりちゃんとした町民の意見もすくってこれたのかなという思いがずっとあるのです。だから、やっぱり基本的にはある程度人数がいないと、これから先町がどんどん疲弊していったって財源厳しくなったときこそ右か左か、白か黒かってきちっと決めなければならない本当に議会が真っ二つに割れるケースも多々出てくるだろうと思っているのです。そういうときには、やはりある程度人数がいたほうがいいか

なというのがずっと思っている私の思いです。

以上です。

平山委員長

今追加で村田委員のほうと磯野委員のかなり重たい思いを発言していただきました。自分の思いというのが、俺はこうだという、もしあるのなら、今日とにかく何名にするとか、そういうことにはならないので、皆さんの意見を拾い出したいなということで聞いていますので、あれば出してください。

小寺委員

これからどうするのもあるのですけれども、いろんな方が今の羽幌町議会の現状をそれぞれ紙に書くのか言葉で言うのか別としても、今問題があるのか、問題ないからうまくいっていると思うのですけれども、その中で委員会の運営だとか、先ほど村田委員おっしゃったように視察だとか、先ほど言った本当に議会として動きがあるかというのは阿部委員が一般質問を例に出したのですけれども、各委員会の取組だとか、そういう中で問題ないからそのままいいのかということにはならないと思うのですけれども、そういうのを挙げていくというのも解決というか、目的を探す一つになるのかなと思っていて、例えば全国的に言われているのはいろんな多種多様な方が議会にいてほしいというのは皆さん共通していると思うのですけれども、例えば羽幌町議会の場合、女性の割合が少ないとか、ほかのパーセンテージから比べるとそうだったり、あとは若い世代、20代なのか30代なのか分からないのですけれども、そういう年齢の偏りがあるとかいろんなので、例えば女性の成り手を増やすにはみんなでどうしたらいいとか、若い方が議会に挑戦できるような環境をみんなで整えるにはどうしたらいいのかとか、そういうところからも問題というか、これからの課題、そういうのから追っていても、それでやっぱり最終的には人数だよとか報酬だよとかいうところに行き着くのかなと。例えば今の現状だと、減らしても増やしてもそんなに自分は変わらないというか、例えばこれが1人減り、2人減りしてもちゃんと運営はできると思うのです。そのためには、必要な人材がきちんと入ってくれば、それがどんどん可能になっていくのかなと思ったりだとか、自分はいろんな多様な人たちが入ってこれるような議会になるようなのを求めていくにはどうしたらいいかみたいな話ができたりだとかというのにも必要かなというふうに、ちょっとまとまりがないのですが、思いました。

阿部委員

今ここで今日結論づけることはないですけども、定数を考えたときに必ず出るのは、自分たちになってくるのは選挙出てここに来るわけですから、そうなったときに若い人にちょっと目を向けますと、自分たちの同世代に目を向けるとやはり仕事をしながら出るのが、先ほど村田委員言っていましたように仕事をしながら果たしてどの程度出れるのかという部分もありますし、村上委員のように仕事も辞めて覚悟を持って出てきた方もいる、やはり新人議員で何もない中で、組織としてついている方でしたらある程度いけるのではないのかという自分の個人的な考えですけども、そういった部分で出てくる方もいるかもしれないですけども、やはり同世代で勤めていてとかだったらなかなかそこまで、本当に背中を押してくれる人がいないと出れないところもありますし、選挙となれば期数の多い方、支持者が多い方と戦うという不安な部分というのは多分若い方々、若くなくてもそうかもしれないですけども、そういった中でどの程度覚悟を持ってやれるのかなという部分もあるので、いろいろと例えば定年制を設けたほうがいいのかどうなのかという、極端な話そういった議論にもなるかもしれないですし、自分なんかうちは商売やっていて、なったことによって例えば法人だったら年間の売上げの45%超えたら議員辞職しなければならないということもありますし、行政からの仕事がありますし、法人ではなくて個人経営者だったら請け負った時点で一発アウトで議員辞職しなければならないという、本当に生きていくということも考え、生活していくということも考えて、多分そういったことも考えながら若い世代であったり立候補するってなったときに、当然先ほど言った45%に関して地方自治法とかで決められていますので、なかなか難しいところありますけれども、本当に報酬だけででは手を挙げるのかっていったらなかなか難しいところもあると思うし、本当に成り手を考える、若い人であったり、女性にしても子育て中でではどこまでどの程度周りの理解も得ながらという、難しいと思います。これについては、本当になかなか結論、自分としてもこうやって出てるのではないのというのは正直言えないので、ここはまた本当に別の機会で勉強しながらやっていくしかないのかなとは成り手不足の解消という部分では思っています。

以上です。

佐藤委員

私も新人議員の村上君と同じ立場の関係ではあるのですが、自分も議員としてやるには皆さん同じ考えで、町をよくして何をという考えはみんな同じことだと思うのです、趣旨的な考え方は。ただ、自分もこういう議会に出てやる場合に、新しく議員になってではこういうこともやってみたい、ああいうこともやってみたい中で、いや、こういう

ことやめませんかとか、こういうことあれですかっていった場合に今の現状の議会がでは対応してくれるかって、いや、昔からこうだから、あれはこうだから、議会自体が変えようという意欲が、いわゆる広報にしても何にしてもこういう広報本当に必要なのですかとか、こういうやり方ってないですかって、いや、こういうやり方が今まで従来どおりだからと、結局はこういう意見が通っていけない自分も情けないのですけれども、そういうところで議会自体の皆さんの考え方が変えようという、こういうのが町にも言えることで、こうやって衰退していつている町に対してみんないろんな意見を出してくれるのですけれども、町自体が動いていないのです、まるっきり。空き家、空き家になったり、空き地、空き地になっていって、そういうのが現状にない中で自分たちがでは議員活動果たしてどうの、人数が多いから、少ないからという問題以前に議員個人個人のやっぱり考え方が俺一番だと思うのです。委員会でも何でもトップがきちっとしたやり方をやれば、どんな会議でも何でもすごくいい会議になる場合と仕方なく出る会議と全然違う、やっぱり指導者なのです。やっぱり人材なのです、最終的に。人さえ育てていけば、何も5人の議員であろうが十何人の議員であろうがそれなりのきちっとした結論が出ると思うのです。だから、人数、報酬どうのこうの話も現状維持でも俺はどちらでも構わないのだけれども、やっぱり改革してほしいのです。口で言うのは簡単なものだけれども、実際問題動いているかっていえば、町民たちにいろんな議員から一般質問で出た中で目に見えた動きって今まで自分議員やってどれだけ動いているのだろうかになって、本当にそういう部分で自分はちょっと情けなく、議員として恥ずかしい思いを自分なりに考えてはいるのだけれども、いろんな意味でそういうことが動いて目に見えたものがない限り町の人も納得しないし、議員が多いのか少ないのかって町民からどうのこうの言うこともないと思うのだ。だから、そういう意味でまず自分たちの人間の本質、そっちが一番俺大事だと思って、議員としての、その辺で考えてもらえればいろんな意見は全て俺はクリアするような気がするのですけれども、生意気言って申し訳ありません。（意見だからいいんだ、自由に。の声）

平山委員長

フリートークですから。今佐藤委員おっしゃられたとおり、私も胸がちょっと痛かったのですけれども、確かに議会の中を変えよう、大きなことで言えば変えようということ、これ本当に難しいって言ったらいいいのか、何て言ったらいいいのか、ちょっと言葉では言い尽くすことができないのですけれども、私が入ったときは確かに佐藤委員と同じで、今までこうだから、こうだからって確かに言うことは通らなかった時期がありました。でも、最近と言ったらおかしいけれども、そういうのはちょっと軟らかくなってき

ているかなって自分として受け止めているのだけれども、町民から認めてもらえるような議会の改革というのか、変わり方というのか、そういうのはまだちょっとやっぱり薄いかなという思いはします、確かに。それは、今回定数でも何でも決めるのにも一つの判断材料になるかもしれないけれども、今言ったことも今後のテーマだと思うのです、議会としての。すごくいい意見今いただいたなと思っております。

逢坂委員

先ほど阿部委員からも役場からの資料ということだったのだけれども、先ほど来から財政問題ということが、議員の定数削減なのか現状維持なのか分からないけれども、議員定数に絡ませて財政問題が何年か出ているのだけれども、これは後からの話になるのかなと思うのだけれども、1人減らして例えば財政的に、そしたら報酬のほうもこれから話しするのだと思うのだけれども、1名減されて町の財政ってどれだけ例えば潤ってどれだけあれなのかなって、私としては報酬のほうも今度響いてくると思うので、報酬が現状のままだったらまだいいのだろうけれども、そういういろんなことも考えれば財政問題だけでやるのもまたおかしい話で、それはあくまでも資料として300万、二百何十万ですか、減るのは分かるのだけれども、そういうもので減らしていくのもちょっとあれだし、それから人口減だって今年間150人ぐらいなのだ。平成22年から今年までの人口調べていくと、約15年間で平均すると大体1年間156人、トータルでは2,351人減っているのです、平成22年、2010年から15年間で。そういうのは、人口減少になるのだと思うのだけれども、かといってそれに基づいていくと今度今後人口減少の推移によって議員定数も減らしていくという根拠を持ってしまうと、またそれもおかしくなってきた、いずれは5名、6名体制になる可能性があるので、その辺またしっかり今後議論していったら定数を決めていったほうが、だから10名だからいいとか、11名だから多いとかという問題ではないと思うのだ。佐藤委員も言っていたけれども、やっぱり中身の問題で、議会の中でしっかりと改革するものは改革する、例えば少数意見でもそういうのを多数決で決めないで、極端な話、決めないで少数意見も吸い上げてやっていくことが議会でないかと私は思うので、何でもかんでも多数決でいってしまうとやはりそれは多いほうに決まってしまうわけだから、そういうことでなくていろんな意見を吸い上げることも大事だと思うので、多数決でやったとしてもそういう意見もあればそういう意見をどんどんやっていくことが必要だと思うので、いろんな改革の仕方があると思うので、それも皆さん、私も含めてだけれども、勉強してこれから次回に向けてまた一生懸命考えていきます。そういうことです。

平山委員長

今逢坂委員言ったのは、さっき小寺さんが言ったように何のためにするのか、きちんとした位置づけ、目的、そういうものを考えて、それでいかないと駄目ではないかということだと思う。いろんな意見出ています。あと何かありませんか。ないですか。(なし。の声) それでは、今後今日皆さんから出されたのを情報収集というか、そういうような資料をまず事務局のほうに作っていただくということですね。

そしてあと、来年の6月まで何らかの形で回答出したいというのが議長の方針でもありますので、それに沿っていきたいと思うのです。それで、2回目の委員会なのですが、来年の6月となったら……

村田委員

6月までに答えを導くとかだと、6月近間に1回で決まるというものではないので、取りあえず今資料とか、これだけの考え方のいろんな意見が出た中で、それを冷静に判断する期間を持って2回目に進むということで行くと2か月ぐらいもあれば……

平山委員長

2回目か、次のね。

村田委員

今11月だから、時期的にやりやすいときと行ったら、12月の定例会終わって12月はいろいろあるので、1月の末か2月の頭頃かどこかあたりまでみんないろんな情報収集する期間としてあってもいいのかなと思いますけれども。

平山委員長

よろしいですか。(異議なし。の声) そしたら、1月の末か2月の頭に2回目の委員会を開きたいと思います。それまでに皆さん、先ほどいろんな意見が出ていますので、それぞれに思いがあると思いますので、考えをまとめていただければと思います。

あと、議長何か言うことは。

村田委員

ここまで皆さん意見出していただいて、ありがたいなと思いました。私の中で議長全国大会に行ったときの議員報酬の見直しに向けたガイドブックだとか、議会力アップのための活動例だとかという、こういうものも何点かあるのですけれども、こういうもの

をもし参考にしていきたいのであれば、事務局にもこれありますので、コピーしてもらいますか。こういうのもどういう形にすると議会活動って活発になるかということも書いてあるのです。これは、やっぱり人それぞれなのですけども（欲しい人だけで、全部ってあれだから。の声）だから、どうしたらいいですか。ピックアップして（欲しい人行けばいいでしょう。の声）（作って置いておきます。の声） こういうのもそれこそ今この次にあるペーパーレスになるとタブレットで全部見てというふうになれるけれども、今まだできないので（早くペーパーレス。の声） 局長のほうでこういうのをみんな持っていたほうがいいではないというものは用意してもらって。

平山委員長

それでは、長時間にわたり貴重なご意見、皆さんどうもありがとうございました。